

第3回「海外との関係」～世界史の中の江戸～

(1) 中国と韓国(唐物礼賛)

「君台観左右帳記」歴博本 国立歴史民俗博物館所蔵 ○唐物礼賛の価値観

(2) 西洋との出会い①戦国編・宣教師たちと文物

- 戦国大名も、宣教師などを通じて、西洋の文物を需要していた。
キリシタン大名：大友宗麟、高山右近*彼らの故地の発掘では、キリシタン墓などが発見されている。
- 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの政権下でも、キリシタンはいた。
- 東京駅八重洲北口遺跡の発掘調査では、キリシタン墓が発見されている。
- 島原の乱を契機に、禁教に。

(3) 西洋との出会い②江戸編・オランダ東インド会社と文物

- V.O.C オランダ東インド会社の設立
- 1594年、アムステルダムで9人の商人が香辛料貿易の相談(オランダとポルトガルは敵対関係)
 - 1595年、4隻の船が出港
 - 1597年、出港時に240人いたクルーは87人で戻る。(それでも、オランダの船が成功した意義は大きかった。)*当時の航海の様子がしのばれる。
 - 1595-1601年の間に、8つの別の会社が設立し、65隻の船が、オランダ船の日本漂着
 - オランダ船リーフデ号は、1598年にロッテルダム港を出発した5隻の船のうちの1隻。1600年4月に、大分県の黒島に漂着。
 - 江戸に到着したイギリス人のウィリアム・アダムス(三浦按針、平戸オランダ商館に雇われる)とオランダ人のヤン・ヨーステン*は、家康の外交顧問として、朱印船貿易などに尽くす。*一説に、「八重洲」地名の由来。
 - オランダとの交易の開始、平戸
 - 1609年、オランダ船、平戸入港。商館を設置。
 - 1613年、イギリス船、平戸入港。商館を設置。
 - 1616年、オランダ・イギリス貿易を平戸と長崎に限定。
 - 1620年、ウィリアム・アダムス(三浦按針)平戸で没する。
 - 1623年、イギリス商館、閉鎖。
 - 1624年、鄭成功、平戸に生まれる。
 - 長崎出島
 - 1635年、唐船貿易を長崎に限る。
 - 1636年、長崎出島完成。ポルトガル人を收容。
 - 1637年、島原の乱おこる。*キリシタン大名やキリシタン墓などを思い出してください。
 - 1639年、ポルトガル人、日本追放。オランダ人、およびイギリス人との混血児、バタヴィアに追放。
 - 1640年、平戸オランダ商館の破壊。
 - 1641年、平戸オランダ商館の長崎出島への移転。

スペインとポルトガルとの関わりから、オランダ・イギリスとの関わりの時代に入ってテイク。

オランダ、中国(明・清)、日本の関係史、日本でも長崎と江戸、あるいは、薩摩や琉球、対馬などの関係史が複雑にからみあう。そこがむしろ面白い。

それは、陶磁器などの物質文化の上にも反映されている。



*右画像はアムステルダムの本社、左の2つの画像は、運河沿いの倉庫にあるV.O.Cのマーク(撮影・水本)

(4) 西洋との出会い③幕末編・外国人居留地と文物

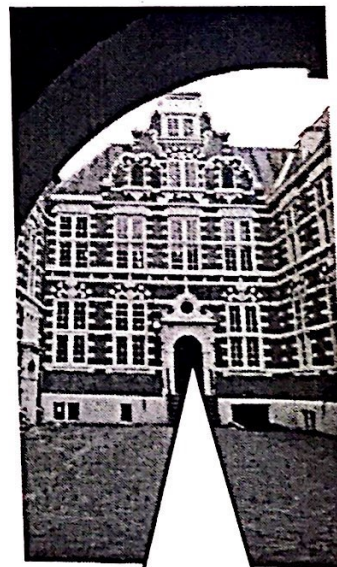
- 1854年(安政5) 日米修好通商条約
 - 1859年(安政6) 開港⇒外国人居留地が開かれる。
 - 1899年(明治32) 日米通商航海条約で、外国人居留地廃止
- ★築地外国人居留地⇒明石町遺跡の発掘調査
- ★横浜外国人居留地 山下(関内)地区および山手地区
- ⇒山下町の横浜山下居留地の発掘調査 ガラスの器、洋食器類が多数出土している。

(5) 各地から来た名産品とコンテナ(琉球の壺屋焼など)

(6) 万国博覧会と薩摩焼(欧米の日本への関心)

*薩摩焼★

(7) DISCUSSION(海外と日本の関係)



V.O.Cは肥前磁器の東南アジアやヨーロッパへの輸出に大きく関わっている。